

大津企業景況調査報告書

(第93回)

令和3年4月 ～ 6月期 実績

令和3年7月 ～ 8月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について
(令和3年4月～6月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 2 社	9 社	7 5 . 0 %
卸 売 業	1 3 社	1 0 社	7 6 . 9 %
小 売 業	2 5 社	2 0 社	8 0 . 0 %
サービス業	3 1 社	2 4 社	7 7 . 4 %
建 設 業	1 9 社	1 5 社	7 8 . 9 %
合 計	1 0 0 社	7 8 社	7 8 . 0 %

3. 調査期間

調査対象期間は令和3年4月～6月とし、調査時点は令和3年6月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

景況感はマイナス幅が4期連続縮小するも、回復の足取りは重い

令和3年4月～6月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期の▲28から▲13へと15ポイント改善し、4四半期連続でマイナス幅が縮小したものの、プラスまでの道のりはまだまだ遠い。業種別では、小売業が▲22から+5へ大幅改善し3年ぶりにプラスに転じた。サービス業も▲39から▲17へ、卸売業も▲36から▲20へと改善した。一方で、建設業は▲20、製造業も▲22と、前期と同様の値を維持した。非製造業の改善は、コロナで急落した前年同期と比較したことによるとみられる。

先行きの業況判断DIは、全体では▲13から▲27へと悪化するとみており、今四半期に改善した非製造業では、卸売業が▲20から▲50へ、サービス業も▲17から▲38へ、小売業も+5から▲10へといずれも悪化するとみている。一方、建設業では今期同様に▲20を維持し、製造業も▲22を維持するとみている。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、全体ではマイナス幅は縮小するもプラスまでの道のり通し

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲28から今期は▲13へ改善したものの、プラスまでの道のりはまだまだ遠い。

□ 売上DI（前年同期比）は、非製造業の大幅改善はコロナで急落した前年同期の反動

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲36から▲5へと大幅改善した。業種別では、非製造業が大幅改善したが、これは、コロナで急落した前年同期の反動とみられる。建設業は▲20から▲27へと悪化した。

□ 採算DI（前年同期比）は、全体では大幅改善するも、建設業で悪化

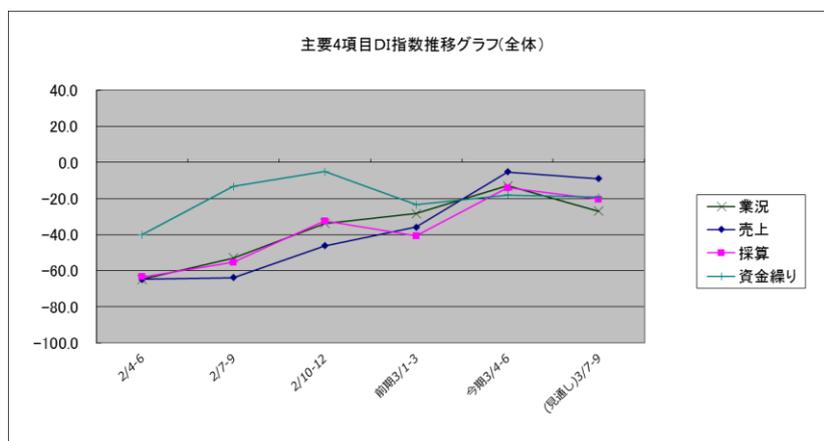
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲41から今四半期は▲14へと大幅に改善した。中でも非製造業で軒並み改善が進んだのは、これもコロナで急落した前年同期の反動とみられる。一方で、建設業は▲33から7ポイント悪化して▲40となり、厳しい状況が続いているとみられる。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、全体として小幅改善も、業種によりまだら模様

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲24から▲18へと小幅改善した。建設業では▲27から±0へ、サービス業で▲35から▲25へと改善した。一方で、製造業では▲22から▲33へ、卸売業では▲27から▲30となっており、売上増加に伴って運転資金の確保が課題となっている状況もうかがえる。

□ 従業員DI（前年同期比）は、全体で人手不足は緩和するも、サービス業では逼迫

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+15から今期は+13へと若干緩和するとみている。売上が改善した製造業でも+11から▲11へと人員の手当が進んでいる模様。卸売業でも▲9から▲20へと同様の傾向を示している。一方で、建設業は慢性的な人手不足が続いており、サービス業では+4から+21と、業況の回復で人手不足感が高まっているとみられる。

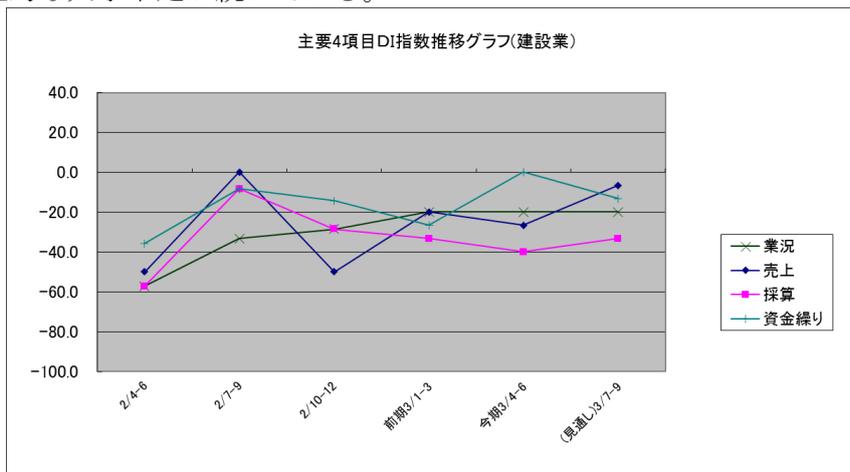


建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲20 と今四半期は同様の値である。個別指標をみると、「売上」は前四半期の▲20 から今四半期は▲27 へと悪化した。「採算」についても▲33 から▲40 へと悪化しており、北米市場での『ウッドショック』に端を発した世界的な木材価格の高騰や入手難の影響で、国内での建設資材の品薄や価格上昇につながったことで採算が悪化してきていると想定される。「資金繰り」については、▲27 から±0 へと改善しており、国のコロナ融資の施策が一定の効果を与えているものと思われる。

建設業は、コロナ禍の中、一部での経済活動の再開もあって、業績の回復が予想される中、資材の高騰などで「採算」の改善にはなかなか結びつかず、業況の判断も足踏み状態となっているとみられる。

「従業員」は前四半期の+40 から今四半期は+33 となり、若干緩和の兆しは見受けられるものの慢性的な人手不足が続いている。

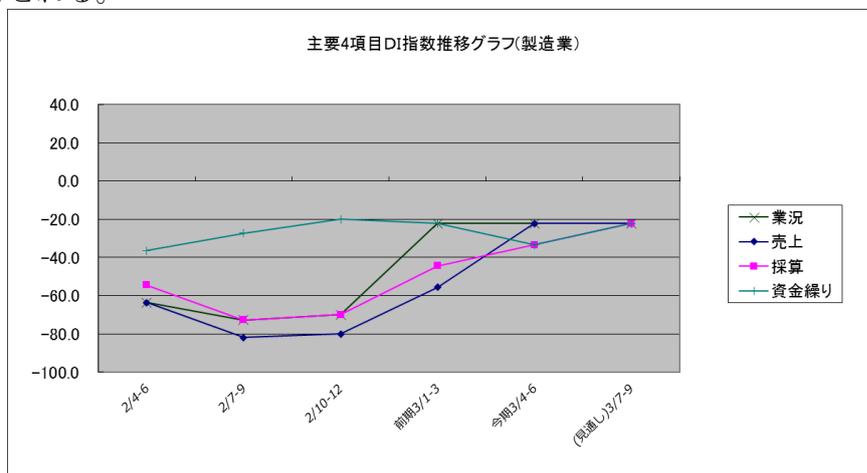


製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲22 と今四半期は同様の値である。個別指標をみると、「売上」は▲56 から▲22 へと+36 ポイント改善した。「採算」については▲44 から▲33 へ、「採算の水準」も▲11 から+11 へと一定程度改善はしている。一方で「資金繰り」については▲22 から▲33 へと悪化しており、資材の価格上昇によるコスト高を転嫁し切れていないことや売上回復に伴う運転資金の確保に苦労している姿がうかがえる。

製造業はコロナ禍により、一時期リーマンショック時に迫る悪化状態となっていたが、国内外での生産活動の回復に伴い、当地においても改善の動きが加速しているように思われる。

「従業員」については、仕事量の増加にもかかわらず、前四半期の+11 から今四半期は 22 ポイント低下して▲11 となっており、人員の手当が進んだことで、逆に人手過剰感が出ている様子がみてとれる。



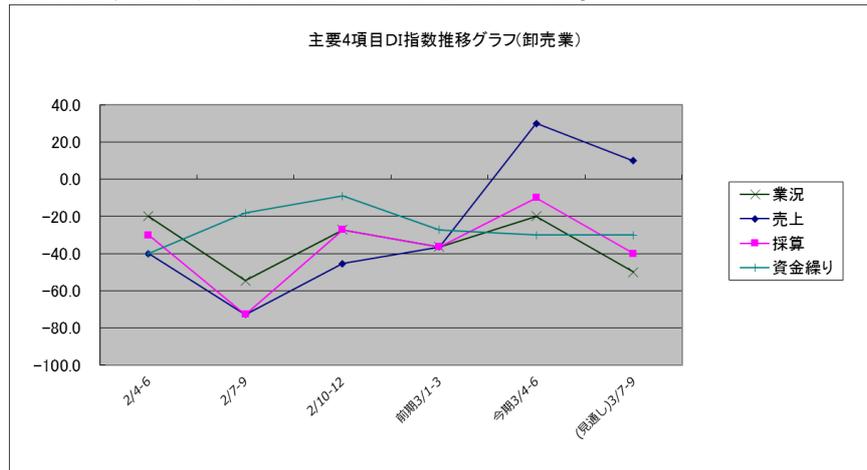
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲36 から今四半期は▲20 へと改善した。個別指標をみると、「売上」は前四半期の▲36 から今四半期は+66 ポイントの大幅改善を示し、+30 へと一気にプラスに転じた。「採算」についても前四半期の▲36 から▲10 へ、また、「採算の水準」についても±0 から+10 へと良化しているが、これは前年同期にコロナで業況が悪化した反動とみられる。

「資金繰り」については、▲27 から▲30 へと小幅悪化しており、売上増加に伴う運手資金の確保に苦慮している状況がうかがえる。

コロナ禍による一時期の大幅な落ち込みから少しずつ回復してきているものの、飲食関連の卸売業の現場からはコロナ後の先がなかなか見通せない苛立ちの声も聞こえてくる。

「従業員」は前四半期の▲9 から今四半期は▲20 へとさらにマイナス幅が拡大し、売上の回復とは裏腹に人手過剰感が高まってきていると思われる。

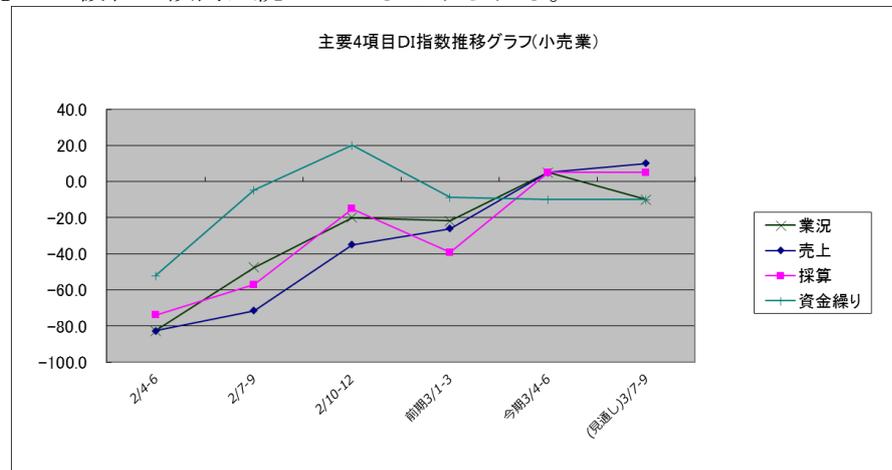


小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲22 から今四半期は+5 へと大幅改善し3年振りにプラスに転じている。個別指標をみると、「売上」も▲26 から+31 ポイント改善して+5 となり、「採算」についても▲39 から+5 へと、いずれもプラスに転じているが、前年同期にコロナで大幅に落ち込んだ反動という面がある。

コロナ禍の中、巣ごもり需要の拡大や人々の生活の変化から生じるあらたな需要に目を向けた商材やネット通販対応で売上の回復を図っているという現場の前向きな声も聞こえてくる。「資金繰り」は前四半期の▲9 から今四半期は▲10 へと足踏み状態となっている。

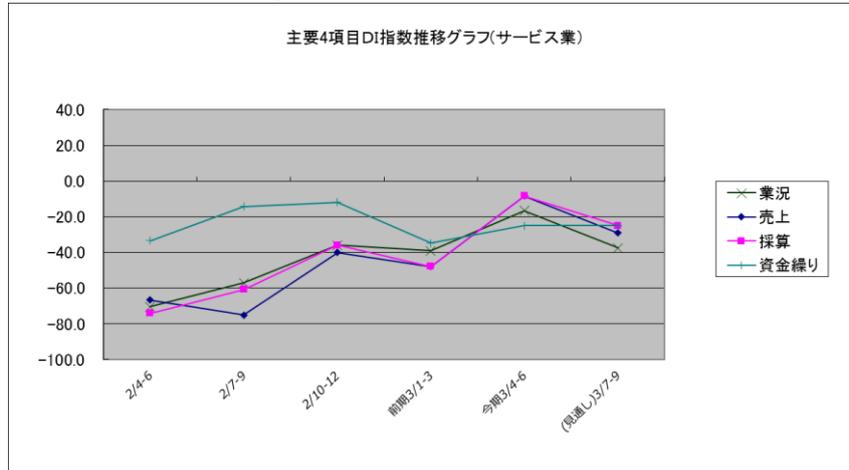
「従業員」は前四半期の+22 から今四半期は+15 へとなり、売上の増加基調の中、人手不足感が残るものの緩和の傾向は続いているとみられる。



サービス業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲39から今四半期は▲17へと+22ポイント改善している。個別指標をみると、「売上」も▲48から▲8へ、「採算」も▲48から▲8へと、いずれも+40ポイント改善しているが、前年同期にコロナで大幅に落ち込んだ反動の面もある。旅行業や旅館業などの現場からは引き続き厳しい状況にあることを憂える声も上がっており、コロナワクチン接種の進展による本格的な経済の回復を待ち望む姿が浮かび上がってくる。

「従業員」は前四半期の+4から今四半期は+21となり、仕事量の増加に伴って人手不足感は高まってきているとみられる。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲13から来四半期は▲27へと再び悪化するとみている。個別指標をみると、「売上」は▲5から▲9へ、「採算」についても▲14から▲21へ悪化するとみている。「従業員」については、全体として+13から+12へと人手不足感は足踏み状態となるとみているが、滋賀県全体の有効求人倍率は令和2年4月以降、連続1.0を下回っており、引き続き動向に注意する必要がある。

業種別の「業況」DIでは、卸売業は今四半期の▲20から来四半期は30ポイント減の大幅悪化で▲50になるとみており、サービス業も▲17から▲38へ、小売業も+5から▲10へと再びマイナスに転じるとみている。一方で、建設業は▲20から変わらず、製造業でも▲22を維持するとみている。

コロナワクチン接種が進み、経済の回復が期待される中、業況改善の兆しもうかがえるが、変異型による第5波の懸念もあり、先行き見通しが立てにくく、建築資材や燃料費の価格上昇などによる仕入れコスト高から、現場からは今後の事業運営に不安の声も出ている。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した割合は28%で、3ヵ月前の25%より3ポイント増加しているが、設備投資に対する意欲は引き続き低い状態を維持している結果となった。業種別では、卸売業が40%、小売業が30%、サービス業が29%、製造業が22%、建設業が20%となっており、業況の回復が足踏み状態の2業種では投資に対して、より慎重な姿勢がうかがえる。

投資内容の割合は、「設備更新」が36%で最も多く、コロナ禍による業況の先行き不透明であるが、老朽化設備の入れ替えは引き続き必要と判断されていると思われる。「合理化・省力化」については、3ヵ月前の30%から今期は12%へ、「生産力増強」は3ヵ月前の19%が今期は12%となり、これらの前向きな設備投資への意欲が再び低下してきているとみられる。

一方で、投資方針は、「計画通り」が55%で、「景気により見直す」が18%となっており、景気の先行きへの見通しについて肯定的な見方が優勢となっている状況もうかがえる。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見) 以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・コロナ禍により消費行動は低迷してくると予想ができるが、検討すべき対策が不明である。
(製造業)
- ・新型コロナ対策事業受注悪化 (製造業)
- ・不安な報告が多数されているワクチン。私や家族は打たないにしても、今の様な取り組みで社会は成り立つのでしょうか？今は良くても事業として継続していけるか？と次の一手に躊躇してしまいます。(製造業)
- ・コロナの影響でどういうことを生かし、何を排除するか少しずつみえてきたように思います、協力して思いやってみるしかないですね。(卸売業)
- ・コロナの影響が続く中、2020年度の4月、5月よりは売上が持ち直したが、それでもコロナ前の半分位しかないので、ジワジワと資金繰りが苦しくなっている。昨年も後半はかなり持ち直したが、変異株等コロナの先行きが見えない為、きびしい状況は続くと考ええる。飲食店いじめはいいかげんにしてほしい。(卸売業)
- ・まったく先が読めない。(小売業)
- ・先が読めない今だから、新聞も読まない若い社員に「今、努力しろ」って言える。努力もせずに、自分の将来を切り開く事はできない。言いながら会社も同じだと思う。今出来る事をやる事が大事と思います。(小売業)
- ・コロナ状況下、長期化により消費方向の変化を感じる。しかし、仕事、学校など在宅がなくなり、生活上の需要に変化が昨年より出ている。新たな来客を増やすべく、通信、スマホ、ネット販売等に力を入れ、コア商品、特殊山芋、多肉植物に目を向けてもらう商戦にアピールするが従来の販売が新たな仕掛けにより、減退しているのが問題。しかし、同じ人員でやるので将来を期待して努力しかない。(小売業)
- ・木材の品不足と値上げによる市場の変化が今後出てくると思う。(サービス業)
- ・コロナウィルスの変異株等による第4波の影響は甚大です。関西・東海の緊急事態宣言による旅行需要の低下は観光業界を確実に縮小・淘汰していくことになる。(サービス業)
- ・全員ワクチン接種後の世界を待っています。(サービス業)
- ・長引くコロナ自粛でキャンセルが続き、集客ができない。売上が上がらない。今、一番ひどい状態です。(サービス業)
- ・新型コロナワクチン接種の遅延が地域経済の衰退につながっているのではないかと、1日も早く市民全員の接種、そして1日も早く経済状況の好転を期待したい。(サービス業)
- ・ガソリン上昇に関して、米国でワクチン接種拡大に伴う、経済回復期待を背景にガソリン需要の増加が予想されたためであり、一方、日本では外出控えでガソリン車の利用が減っている。ガソリンの需要減でも原油高に伴うコスト転嫁が経営に影響している。
(サービス業)
- ・金属と木材の供給不変が大きい (建設業)
- ・コロナウィルスの為に苦しんでいる業者が多いのに心痛めています。いつ、わが社もそうなるのかわからないです。気をつけて仕事をしておりますが不安です。(建設業)

以上

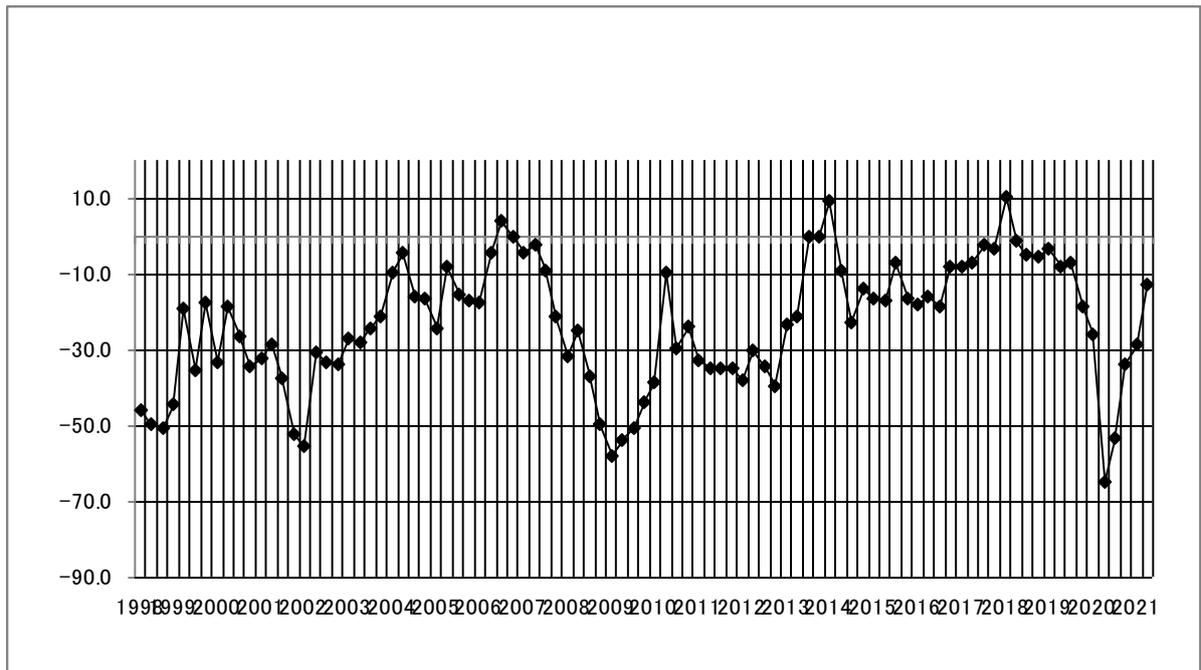
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し
全 体	▲12.8	▲26.9	▲5.1	▲9.0	▲14.1	▲20.5
建 設 業	▲20.0	▲20.0	▲26.7	▲6.7	▲40.0	▲33.3
製 造 業	▲22.2	▲22.2	▲22.2	▲22.2	▲33.3	▲22.2
卸 売 業	▲20.0	▲50.0	30.0	10.0	▲10.0	▲40.0
小 売 業	5.0	▲10.0	5.0	10.0	5.0	5.0
サービス業	▲16.7	▲37.5	▲8.3	▲29.2	▲8.3	▲25.0
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し
全 体	5.1	3.8	▲35.9	▲33.3	12.8	11.5
建 設 業	33.3	13.3	▲13.3	▲20.0	33.3	33.3
製 造 業	11.1	11.1	▲44.4	▲33.3	▲11.1	▲11.1
卸 売 業	10.0	20.0	▲50.0	▲30.0	▲20.0	▲20.0
小 売 業	▲15.0	▲20.0	▲25.0	▲30.0	15.0	15.0
サービス業	0.0	8.3	▲50.0	▲45.8	20.8	16.7
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し
全体	▲17.9	▲19.2	▲6.4	▲6.4	3.8	3.8
建設業	0.0	▲13.3	6.7	6.7	26.7	26.7
製造業	▲33.3	▲22.2	▲11.1	0.0	11.1	11.1
卸売業	▲30.0	▲30.0	▲20.0	▲20.0	10.0	10.0
小売業	▲10.0	▲10.0	▲5.0	▲10.0	▲10.0	▲10.0
サービス業	▲25.0	▲25.0	▲8.3	▲8.3	▲4.2	▲4.2
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>